

一本木沢ビオトープ親自然体験2025 ～環境ゼミ～

令和7年7月6日（日）、十和田市東コミュニティセンターにて一本木沢ビオトープ親自然体験2025が開催されました。このイベントは一本木沢ビオトープ協議会が主催となり、北里大学の協力により毎年開催されています。毎年行われており広く参加者を募っているホタル観察会、トンボ観察会、水中生物観察会の他、環境ゼミでは「より生き物が好き」「詳しく知りたい」という児童生徒を対象に開催しており、今年で3回目となりました。

当日は日差しが強い真夏日でしたが、ビオトープの周りは木々の木陰と稲生川からの涼しい風で過ごしやすく、生き物を採取・観察するには最適な環境でした。



【北里大学柿野先生による講義】



【生き物採取前の注意点を聞く参加者】

参加した子供たちは4班で前半後半に分かれ、それぞれビオトープ周囲の散策路と付近の沼池で生き物の採取を交代で行いました。

散策路ではチョウやトンボ、キリギリスなどの目立つ昆虫だけでなく、普段であれば見落としてしまいそうな小さなテントウムシやゾウムシ、落枝の裏に隠れていたワラジムシやヤスデも採取し、図鑑を使って何という種類なのか調べていました。

また散策路では昆虫だけでなく様々な鳥類も観察できました。参加した北里大学生から種類を見分けるポイントや鳴き声について聞きながら、子供たちはビオトープ周辺にどのような鳥類が生息しているのか調べていました。



【散策路で生き物採取をする様子】



【オオヨシキリの卵と雛】

沼池では膝まで水に浸かりながら採取を行いました。水面にはたくさんのトノサマガエルが顔を出しているのが見られ、また水中にたも網を差し込むと様々な種類のトンボのヤゴやコオイムシ等の水生昆虫、ドジョウを採取することができました。また沼池に張り出した枝の先に、近年ビオトープ付近で生息が確認されているモリアオガエルの卵塊も見つけることができました。



【沼池での採取の様子】



【たくさん採取できたトノサマガエル】

生き物採取を終えた後、一部をコミュニティセンターに持ち帰りました。そしてその生き物がどのような特徴を持っているのかじっくりと観察し、どのような場所で見つけることができたかをビオトープの地図に書き込んでいきます。さらに図鑑で調べながら生き物の生態を知り、その生き物がなぜそこにいたのかということまで考え、整理し、最後に発表を行いました。

参加した子供たちは元々生き物が好きでしたが、そこからさらに興味を深めることができた様子でした。



【採取した生き物について話し合う様子】



【小さな生き物の観察は顕微鏡で】



【作成した生き物生息マップ】



【発表の様子】

次回の一本木沢ビオトープ親自然体験は7月26日（土）で、ホテル観察会です。十和田市にお住まいの方はぜひご参加ください。詳細は十和田市広報誌「広報とわだ」7月号をご確認ください。

<https://www.city.towada.lg.jp/shisei/koho/kohotowada/files/202507all.pdf>

関連事業：県営一本木沢地区農村振興総合整備事業（H9～16）